

第77回 放送番組審議会議事録

- 1 開催年月日 2025年(令和 7年)11月13日
- 2 開催場所 〒243-0111 神奈川県愛甲郡清川村宮ヶ瀬940番地の25
宮ヶ瀬レイクサイドエフエム放送機構株式会社 本社
- 3 委員出席 委員総数 5名 出席委員数 5名

4 議事(審議内容)

第1議案 特別番組「清川村防災訓練」について

8月に行われた特別番組「清川村防災訓練」を聴いていただいた後、ご意見等を審議委員からいただきました。

放送の内容は、岩鞆村長のインタビューのあと、防災無線連動シェイクアウト訓練、新型コロナウイルスの発生以降、自治会単位で実施する防災訓練は、住民の高齢化などにより規模を縮小して実施されました。

放送では、想定される首都直下型地震、東海・東南海地震、今回は、関東大震災の震原を同じくする地震について、家庭、職場、学校、出先などで遭遇した場合の対応、取材により見えてきた避難の実態、最後に関東大震災による周辺の被害状況(地震時：山津波による死者16名、埋没棟数9戸で、遺体が確認されたのは8人のみ、ある家では6人家族全員が埋没死。)などについて放送を行いました。

委員から毎年訓練会場でも、放送が流され、毎回、違った視点からの放送には、感心したとの言葉があり、また、「災害の度合いと、インフラの状況によって、各放送所から、状況にあった放送等も選択肢のひとつ」とお聞きしているが、なぜ災害時にコミュニティ放送の存在が、その時だけクローズアップされるのか」という質問がありました。

インターネット(デジタル回線)経由でラジオの放送内容を聴取可能な「ラジコ」に代表される放送受信(情報収集)には、コミュニティ放送(エフエム放送)に代表されるアナログ放送に比べ、情報が届くまでに2分から4分程度、遅れて届く、すなわち、瞬時に届かないという大きな欠点があります。(この遅延は、津波が到達している可能性もある。)

そして、日本放送協会は、あまねく全国に、県域放送は、総務省から指定された各都道府県の域内に、そして、コミュニティ放送は、市区町村の一部を放送する区域が決められることから、より細かい情報が提供でき、災害発生時に期待がもたれるものと考えられます。しかし、委員ご指摘のとおり、本局では、災害時におけるインフラの脆弱性(主要道路がおおむね1本に、すべてのインフラが乗っており、多くは、土砂災害によるハザード)があること、人口が減少、また高齢化が進んでいることに加え、放送局を支援してくださる方も徐々にではあるが減少傾向であり、災害時に、局員だけで期待に応えることができるか、自問自答している現状があると放送局長からあった。

第2議案 「放送法第6条第5号の報告」について

前回の審議会開催以降、訂正放送等に関し、報告する事項はなく、また、放送番組に関して申し出のあった苦情その他の意見は、ありませんでした。

- 5 審議機関の答申または意見に対してとった措置の内容及びその年月日
(答申又は意見の内容及びその年月日を併せて記載すること。)
- 6 審議機関の答申または意見の概要の公表
公表年月日 令和 7年 12月 1日
- 7 その他参考事項
なし